

堀美智子先生の突然の訃報に接し、心からお悔やみ申し上げます。

2007年の「日本薬業研修センター」設立以来、堀先生は“医薬研究所所長”として、そして私は理事長、名誉理事として、それ以来18年間にわたり、共に薬業界の発展に寄与しようと努力してまいりました。その中で、堀先生のご意見は「日本薬業研修センター」の運営には、必須なものであり、中心的な役割を果たしてくださいました。また、私個人としても、この18年間に堀先生と一緒に議論し、資料を作成し、研修講義を実施し、そこから得ました情報は私の宝物になっております。ここに心から感謝申し上げる次第です。

堀先生は、薬業界の最新の情報を取得することを常に心がけられておられました。そしてその豊富な情報をもとに、患者、消費者の方々、あるいは薬剤師、登録販売者等の専門家の方々にとって重要な情報はなにか、また、その伝達方法を常に考えながら行動されてきた方でした。また、薬業界で働くものとしての良心を大切にし、それを共有することにも精力を注いでおられました。

日本薬業研修センターの設立直後の一番最初の「登録販売者資質向上研修」で取り上げたテーマは、“添付文書”でありました。この時、私は薬を取り扱う者として一番先に理解しておかなくてはならないものは“添付文書”なのだと納得いたしました。これも、薬を扱う仕事をする者にとって、基礎として何が重要なのかよくわかっている堀先生ならではの選択だったと思います。

堀先生は、その後も、現場での豊富な経験をもとに、その時々が一番重要な題材を教材に取り上げ、詳しくそしてわかりやすく解説をしてくださいました。特に、薬学の知識が十分でないまま専門家になった登録販売者の方々にとっては、何物にも代えがたい内容であったと思います。実際、講義後のアンケートでは、“よく理解できました”、“現場で役立つので大変助かります”というような記述が多数ありました。

長年にわたり、「日本薬業研修センター」が多くの皆様に愛され、継続できたのは、前述のように、堀先生のいつも新しい情報を取得し、その情報を、患者、消費者の皆様、薬業界の専門家の皆様と共用しようとする姿勢、薬業界で働く専門家の方々の良心を大切にする真摯な姿勢がもたらしたものだと考えております。

本当に長い間、ご指導いただきまして心から感謝申し上げます。これからも「日本薬業研修センター」は、堀先生の遺志を引き継ぎ、薬業界の発展に努めていく所存でございます。

最後になりますが、心からのご冥福をお祈り申し上げますとともに。天国から見守っていただけることを切に願っております。

一般社団法人日本薬業研修センター 川島 光太郎